

# CILとちぎ通信

第9号 平成24年1月31日発行



・ <small>しょうがいじゅしりつしえんほう</small> 障害者自立支援法や <small>しどうふくしほう</small> 児童福祉法等 2	・ <small>きぶん</small> 気分をかえる 8
の <small>いちぶかいせい</small> 一部改正について	
・ <small>ぜんこくだいこうどう</small> 全国大行動 10. 28 4	・ <small>かい</small> クリスマス会 9
・ <small>けんみんきょうどう</small> 県民共働フェスタに <small>さんか</small> 参加して 6	・ <small>えと</small> 干支 <small>みぎのえだつ</small> 壬辰 10
・ <small>しゅうちゅうこうざ</small> ピア・カウンセリング集 中講座 7	・ <small>ふたあらかまじんじや</small> 二荒山神社 11

とくていひ えいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 じりつせいいかつ 自立生活センターとちぎ

とちぎけんうつのみやししもぐりまち  
〒321-0923 栃木県宇都宮市下栗町2947-8 イースタンピュア 103

でんわ  
電話・FAX : 028-638-2538 E-mail : [ciltochigi@silver.plala.or.jp](mailto:ciltochigi@silver.plala.or.jp)

URL: <http://www11.plala.or.jp/ciltochigi/index.htm>

# しょうがいしゃじりつしえんほう じどうふくしほうなど いちぶかいせい 障害者自立支援法や児童福祉法等の一部改正について

さいとうやすお  
齋藤康雄

しょうがいしゃじりつしえんほう じどうふくしほうなど いちぶ かいせい へいせい ねん がつ  
障害者自立支援法や児童福祉法等の一部が改正され、平成23年10月  
1日から、グループホーム、ケアホームの家賃助成、重度の視覚障害者の  
同行援護等が、平成24年4月1日から、相談支援の充実、障害児支援の  
強化等が実施されます。

そうだんしえん じゅうじつ とうりょうけいかくさくせい たいしょうしゃ おおはば かくだい  
相談支援の充実では、サービス等利用計画作成の対象者を大幅に拡大  
され、最終的には、福祉サービスを利用する全ての障害児者になります。  
これは、障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題  
の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細か  
く支援するために対象者を拡大しました。

たいしょうかくだい あ そうだんしえん ていきょうだいせい とどの しこうご  
対象拡大に当たっては、相談支援の提供体制が整うまで、施行後3  
年間で段階的に対象者が拡大されます。この場合、新規利用者、現行サー  
ビスの利用計画作成費の支給対象者、施設入所者、その他の市町村長が  
必要と認める者を優先して拡大されます。

しょうがいとうじしゃ じぶん  
障害当事者が自分  
で計画案（セルフケア  
プラン等）が作成でき  
る人は、それでもいい  
し、特定相談支援  
事業者の相談支援  
専門員※に作成しても  
らってもいい。

また、支給決定のプロ  
セスも変わり、サー  
ビス等利用計画案を

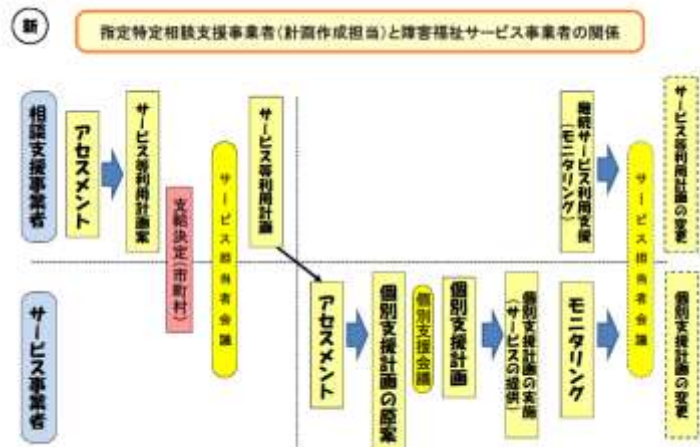


図1

かんあん しちょうそん しきゅうけつてい ほうしき か す さんしょう  
勘案して市町村が支給決定される方式が変わる。（図1参照）

あら そうだんしえんじぎょう ちいきいこうしえん ちいきていやくしえん しょうがいじそうだんしえん  
新たに相談支援事業に「地域移行支援・地域定着支援・障害児相談支援」  
が新設されました。

ちいきいこうしえん しせつ ちいき じりつしえん じりつせいかつ いま  
地域移行支援は、施設から地域への自立支援で、自立生活センターが今ま  
で行っていたILP(自立生活プログラム)そのものです。ILPは、障害

の受容、福祉サービスの利用方法、金銭管理、アパートの借り方、健康管理、  
外出体験、宿泊体験など地域で実際に暮らされている先輩障害者がどの  
ように生活しているかを教えてくれるものです。実際に暮らされている方  
の話は、説得力が違い、私も地域で暮らせると希望を持っていただけ  
る方が多いです。

地域定着支援では、施設・病院からの退所・退院、一人暮らしに移行し  
た者、地域生活が不安定な者等の相談等に24時間緊急連絡体制が新設さ  
れました。

今までも相談支援専門員が配置されていましたが、認知度が低く利用さ  
れている方も少なかったように思います。4月からは、支給決定に勘案さ  
れるなど、専門員の重要性が大きくなっていきそうです。障害者本人の  
声に耳を傾け、その方が地域で安心・安全に暮らせるようなサービス利用  
計画を専門員は作らなくてはならないし、障害当事者が専門員として、同  
じ障害者の気持ちを良く分かるピアな観点からも、よりよい支援をしなく  
てはならないと思います。

※ 相談支援専門員とは、障害者等の相談に応じ、助言や連絡調整等の  
必要な支援を行うほか、サービス利用計画の作成を行います。相談支援  
専門員には、実務経験と相談支援従事者（初任者）研修の修了が要件に  
なります。

### 「相談支援専門員の現状」（2012年1月21日 読売新聞より）

障害者の地域生活や施設サービス利用、行政手続きなどの相談・支援は、  
市町が委託する事業所の「相談支援専門員」が担っている。しかし、県障害  
福祉課によると2011年4月現在、県内の障害者手帳所持者が約8万7  
000人いるのに対し、常勤専従の専門員は44人しかおらず、人手不足  
の状態だ。群馬・茨城など隣県も同様の水準で、全国的に不足している。  
また、専門員の経験年数は平均で約2年11か月と、専門性や継続性も  
十分とは言えない。

専門員からは「相談をこなしきれない」「支援が正しいか客観的に評価で  
きない」との悩みが県に寄せられており、専門員の相談相手が必要という  
皮肉な状況になっている。

このため、県はコーディネーターを県北・県央・県南ごとに1人ずつ配置

することにした。障害者支援の実務経験が豊富で、社会福祉士の資格を持つなど専門性の高い人材に委託。コーディネーターは自らの人脈や情報を活用し、各地域の専門員に対し、行政や医療機関、教育機関、企業と円滑に連携できるよう助言する。

県はコーディネーターに、専門員のスキルを高めたり、専門員と地域の様々な機関・地域資源との結びつきを強めたりしてもらい、社会全体で障害者を支援する仕組みを整備していく。

## ぜんこくだいこうどう 全国大行動 10.28

ながたげんじ  
永田元司

「創ろう みんなの障害者総合福祉法を！ 10.28 JDF大フォーラム」が日比谷野外音楽堂で行われ、参加してきました。フォーラムの目的は、障害者制度改革をすすめ、骨格提言に根ざした障害者総合福祉法づく



くりを確かなものとするためです。全国各地から障害当事者、関係者が集まり、発表では参加者が1万人を超えました。メインの会場には入りきれず、日比谷公園の中に第二会場が設けられ、そこでも熱い思いが込められた声が響き渡っていました。

メイン会場には多数の国会議員、障害者団体の代表者が次々と登壇し、障がい者制度改革推進会議の総合福祉部会の骨格提言に則った総合福祉法の実現に期待する発言が次々とされていきました。そして、次の点を求めるアピールが採択されました。

1. 55人の総合福祉部会構成員の総意としてまとめられた骨格提言の重みを受け止め、法案化とその制定に際して、骨格提言を最大限尊重し反映させること。

2. 骨格提言が反映された障害者総合福祉法を立法化するため、十分な予算を確保すること。

その後はデモ行進ではなく「パレード」として日比谷公園から東京駅まで、穏やかに障害者総合福祉法の実現を目指すコールをしながら隊列を組

んで歩いて行きました。

さて、期待される障害者総合福祉法ですが、その中身はご存じでしょうか。骨格提言から目指す6つのポイントを引用します。



## 【1】障害のない市民との平等と公平

障害者と障害のない人の生活水準や暮らしぶりを比べると、そこには大きな隔りがあります。障害は誰にでも起こりうるという前提に立ち、障害があっても市民として尊重され、誇りを持って社会に参加するためには、平等性と公平性の確保が何よりの条件となります。障害者総合福祉法がこれを裏打ちし、障害者にとって、そして障害のない市民にとっても新たな社会の到来を実感できるものとしします。

## 【2】谷間や空白の解消

障害の種類によっては、障害者福祉施策を受けられない人がたくさんいます。いわゆる制度の谷間に置かれている人々です。また制度間の空白は、学齢期での学校生活と放課後、卒業後と就労、退院後と地域での生活、働く場と住まい、家庭での子育てや親の介助、消費生活など、いろいろな場面で発生しています。障害の種類別間の谷間や制度間の空白の解消を図っていきます。

## 【3】格差の是正

障害者のための住まいや働く場、人による支えなどの環境は、地方自治体の財政事情などによって、質量ともに大きく異なっています。また、障害種別間の制度水準についても大きな隔りがあります。どこに暮らしを築いても一定の水準の支援を受けられるよう、地方自治体間の限度を超え合理性を欠くような格差についての是正をめざします。

## 【4】放置できない社会問題の解決

世界でノーマライゼーションが進むなか、わが国では依然として多くの精神障害者が「社会的入院」を続け、知的や重複の障害者等が地域での支援不足による長期施設入所を余儀なくされています。また、公的サービスの一定の広がりにもかかわらず障害者への介助の大部分を家族に依存している状況が続いています。これらを解決するために地域での支援体制を確立するとともに、効果的な地域移行プログラムを実施します。

## 【5】本人のニーズにあった支援サービス

障害の種類や程度、年齢、性別等によって、個々のニーズや支援の水準は一概ではありません。個々の障害とニーズが尊重されるような新たな支援サービスの決定システムを開発していきます。また、支援サービスを決定するときに、本人の希望や意思が表明でき、それが尊重される仕組みにします。

## 【6】安定した予算の確保

制度を実質化させていくためには財政面の裏打ちが絶対的な条件となります。現在の国・地方の財政状況はきわめて深刻であるため、障害者福祉予算を確保するためには、

きゆうふ ふたん どうめいせい なつとくせい ゆうせんじゆんい あき さいげんかくほ ひろ こくみん  
給付・負担の透明性、納得性、優先順位を明らかにしながら、財源確保について広く国民  
からの共感を得ることは不可欠です。

これらが実現すれば、障害者の生活がかなり改善されると思います。し  
かし1月末現在、新法の実現が危ぶまれています、どうなっていくので  
しょう。注意深く見守りたいです。

## けんみんきやうどう さんか 県民協働フェスタに参加して

ちだまさみ  
千田真巳

がつ か けんちやう ひろ  
11月24日に県庁で開かれたとちぎ  
けんみんきやうどう  
県民協働フェスタ2011に行きました。  
もくてき じりつせいかつ かつどうないよう  
目的は自立生活センターとちぎの活動内容



しょうかい  
の紹介でしたが、寒い中準備したのにブー  
スに来てくれる人が思ったよりも少なかったことが残念でした。

かすおお だんたい きぎやう さんか あ いていじゆう じかん  
数多くの団体や企業が参加していたので、空いている時間に他のブー  
スをまわってみました。印象に残っているのは盲導犬の団体のブースでした。  
もうどうけん きび くんれん う すうひき しこと  
盲導犬も厳しい訓練を受けたうちの数匹しか仕事につけないということが  
わかりました。ブースにいた犬もかわいい感じでも厳しい世界で耐えてき  
ていることに犬の世界の就職も人と同じで簡単にいかないということを知  
りました。

また自分が知らないようなことに力を入れて活動している団体が結構  
あることに驚きました。パソコンや携帯電話の悪質なサイトから子供を守  
るために活動している団体では、スマートフォンの普及に伴って悪質なサ  
イト、ウイルスによる問題がより身近なことになっているという説明を受  
けて自分自身にとっても勉強になりました。

ほか うつのみやだいがく りゆうがくせい き がくせい  
他にも宇都宮大学に留学生として来ているモンゴルの学生からモンゴ  
ルの折り紙を教わりました。モンゴルには折り紙をする習慣がありません  
と聞いて驚きました。

こんかい けんみんきやうどう しんさい ぜんたいてき  
今回の県民協働フェスタは震災のこともあったので全体的にそのこと  
に関するものが多かったことと、色々な団体の活動を知るうちに栃木も  
ちほう けん  
地方の県であってもやるものがたくさんあるんだなとしみじみ感じました。  
きかい  
機会があったらまた行ってみたいと思います。

## ピア・カウンセリング 集中講座

11月11日から13日まで、とちぎ青少年センターでピア・カウンセリング集中講座を開催しました。ピア・カウンセリングとは、同じ背景を持つもの同士で話を聞き合うことで、感情を解放したり、自分に対する理解を深め、自分を肯定的に捉えられるようになり、自信を持てるようになったりするものです。今までは一般の人にも広く知ってもらおうということで公開講座を何回か開催してきましたが、実践を多くしてより深くピアカンを知るために、2泊3日の集中講座を5年ぶりに開催しました。



我々スタッフがリーダーとして講座を行うのは初めてで、メインのリーダーには自立生活センターくればす事務局長の見形信子さんに来ていただきました。

参加者はどれくらい集まってくれるのだろうかと心配もしましたが、8名の方が参加してくださり、定員いっぱいでの講座開催となりました。参加者は、持っている障害も

さまざま、ピアカンの経験もさまざまでしたが、講座が進むうちに打ち解け、楽しく2泊3日の講座を修了することができました。

ピアカンに参加する度に思うのですが、自分の考えを否定されずに安心した環境で自分の話ができ、聞いてもらえるというのはいいものだなあと、今回もまた思いました。今回はピアカンを伝える側として講座に臨んだので、不安や緊張感もありましたし、もう少しうまく伝えられたのではという後悔も残るのですが、自分を知るためにピアカンがいいもので、多くの方にピアカンを知ってもらいたいという気持ちには変わりませんでした。また講座を開催して、ピアカンの良さを伝えられたらと思います。



2日目 交流会後の写真

## ピアカン参加者の感想

- ◆ 通いで受講できたので、疲れることなく、気持ちに余裕を持って参加することができました。(そら)
- ◆ 他の障害者の方とふれあえて良かった。(かっぱ)
- ◆ 緊張してなかなか打ち解けられませんでした。3日間無事に過ぎて心が和みました。ありがとうございました。(ゆりっぺ)
- ◆ いろいろな方からお話を聞くことができて良かった。(タカヒロ)
- ◆ 仲間作りができて良かった。  
継続して長期講座にも参加してみたい。(たいき)
- ◆ 同じ、また違うジャンルの仲間に友情を感じた。  
活動的になれた。(さとちゃん)
- ◆ 講座に参加したのは4回目。今回も参加して良かったと実感です。  
ひとそれぞれ、感じ方や考え方もちがうけれど、わたしは好きです、ピア・カウンセリング。(のんちゃん)
- ◆ はじめての参加で結構疲れた。ε~(、ー;)ゞフー(マサミ)

## 気分をかえる

おおやまのりこ  
大山智子

ある日、いつも使っている車椅子のROHOクッション(空気調節式のゴムクッション)が突然パンクしていた。しかもそれに気づかず車椅子に乗って外出し、自由な時間を過ごした。

四肢麻痺で感覚がないから仕方ない、では、すまない。気づけなかった代償は、一ヶ月ほどの不自由で大嫌いなベッド上生活。「あ～あ、やっちゃった・・・」の後悔で落ち込む毎日。日々の点検をおこたらないようにすることと、自分へのシグナルに鈍感になりすぎるのもよくないと反省。受傷当時、OTの先生に『自分の身体を守るのは自分しかないのよ!』と耳にたこができるほど言われつづけたのを思い出す。初心忘るべからずだ。

ベッドの上からは風景が見えるわけでもなく、壁や天井と向き合うことが多いのでストレスが溜まる。そんなときの気分転換にアロマテラピー(芳香療法)は好都合。



香りは鼻から嗅覚をとおして脳にダイレクトに伝わるので、気分を変えるのに手っ取り早く、ベッドの上でも利用が簡単なのだ。ディフューザー(芳香拡散器)を使えば部屋中がよい香り。冬の時期なら、アロマ機能付きの加湿器もあるしね。



数十種類ある精油のなかでも、わたしのお気に入りの香りは日本人にも馴染み深い“ゆず”で、気持ちさがほっこり温まる。そのほかにオレンジスイートやラベンダーにユーカリにティーツリー。たいくつな時間、香りにだいぶ助けられました。

これを読んでいる人も、簡単に気分転換をしたいときは、自分の好きな香りを目を閉じて深呼吸しながらかいでみてください。入れたてのコーヒーの香りやみかんをむくときの香り、グレープフルーツの香りなど身近にはたくさんの香りがあります。簡単にリフレッシュできますよ～

## クリスマス会

恒例となってきたクリスマス会を昨年12月11日に行いました。今まではサンアビリティーズを会場にしてきましたが、今回初めて宇都宮市の福祉センターを利用してもらいました。10階の大会議室を会場としましたが、120人収容の大きな部屋で、ちょっと広すぎたかなという感じでした。それでも、普段よく会う方から初対面の方、またバーベキューに続いて宇短大から古川先生と多くの学生さんが参加してくれまして、総勢46名でのクリスマス会となり、広い部屋を十分に使って楽しみました。

毎年500円の会費



でどれだけの食べ物を用意できるだろうかと頭を悩ませるのですが、昨年までのお菓子やジュース、炊き込みご飯に鶏の唐揚げといったメニューに加え、

今年<sup>ことし</sup>はマカロニサラダ<sup>ようい</sup>も用意<sup>くば</sup>してみました。配<sup>かた</sup>り方に問題<sup>もんだい</sup>があったか、頑張<sup>がんば</sup>って作りすぎたのか、味<sup>あじ</sup>は悪<sup>わる</sup>くなかったと思う<sup>おも</sup>のですが、想像<sup>そうぞういじょう</sup>以上に残<sup>のこ</sup>ってしまっ<sup>ごさん</sup>たのが誤算<sup>ごさん</sup>でした。

そして前回<sup>ぜんかいこうひょう</sup>好評<sup>つく</sup>だったケーキ作り<sup>こんかい</sup>を、今回<sup>ばん</sup>も6班<sup>わ</sup>に分かれてやってみました。昨年<sup>さくねんけいけん</sup>経験<sup>ひと</sup>した人もいて、今回は余裕<sup>こんかい</sup>で完成<sup>よゆう</sup>に持<sup>かんせい</sup>っていき<sup>も</sup>ると思<sup>おも</sup>っていました。しかし初<sup>はじ</sup>めての場<sup>ばしょ</sup>所で、泡立<sup>あわだ</sup>て器<sup>き</sup>や氷<sup>こおり</sup>の準備<sup>じゅんび</sup>が不十分<sup>ふじゅうぶん</sup>だったこともあ<sup>なま</sup>って、生<sup>つく</sup>クリームを作る<sup>くろう</sup>のにかなり苦<sup>くるう</sup>勞<sup>しゅどう</sup>を<sup>しゅどう</sup>してしま<sup>しゅどう</sup>いました。手動<sup>あわだ</sup>で泡立<sup>かた</sup>ててくれた方<sup>ほんとう</sup>、本当<sup>つか</sup>にお疲<sup>さま</sup>れ様<sup>かさ</sup>です。飾<sup>かざ</sup>り付け<sup>つ</sup>は各<sup>かくはん</sup>班<sup>はん</sup>ともそれぞれのセ<sup>はつき</sup>ンスを<sup>はつき</sup>発<sup>はつき</sup>揮<sup>はつき</sup>して、おいし<sup>てきあ</sup>そうな<sup>てきあ</sup>ケ<sup>てきあ</sup>ーキが<sup>てきあ</sup>出来<sup>てきあ</sup>上が<sup>てきあ</sup>りました。

また、回答<sup>かいとうしゆ</sup>者に<sup>かく</sup>隠<sup>え</sup>された<sup>み</sup>絵<sup>え</sup>を見<sup>ひと</sup>えてい<sup>しつもん</sup>る人<sup>ひと</sup>に質<sup>しつもん</sup>問<sup>しつもん</sup>しながら<sup>しつもん</sup>あ<sup>しつもん</sup>てる<sup>しつもん</sup>ゲ<sup>しつもん</sup>ーム<sup>しつもん</sup>や、<sup>しつもん</sup>プレ<sup>しつもん</sup>ゼ<sup>しつもん</sup>ント<sup>しつもん</sup>交<sup>しつもん</sup>換<sup>しつもん</sup>を<sup>しつもん</sup>兼<sup>しつもん</sup>ね<sup>しつもん</sup>た<sup>しつもん</sup>ビン<sup>しつもん</sup>ゴ<sup>しつもん</sup>ゲ<sup>しつもん</sup>ーム<sup>しつもん</sup>でも<sup>しつもん</sup>盛<sup>しつもん</sup>り<sup>しつもん</sup>上<sup>しつもん</sup>が<sup>しつもん</sup>り、<sup>しつもん</sup>楽<sup>しつもん</sup>しい<sup>しつもん</sup>時<sup>しつもん</sup>を<sup>しつもん</sup>過<sup>しつもん</sup>ご<sup>しつもん</sup>し<sup>しつもん</sup>ました。

## えと みずのえ たつ 干支 壬辰

はこいしみつこ  
箱石 充子

今年<sup>ことし</sup>の干支<sup>えと</sup>は皆<sup>みな</sup>さん御<sup>ご</sup>存<sup>ぞん</sup>じのよう<sup>たつどし</sup>に辰<sup>たつ</sup>年<sup>たつ</sup>辰<sup>たつ</sup>は私<sup>わたし</sup>の年<sup>とし</sup>なのでど<sup>せい</sup>んな<sup>せい</sup>性<sup>せい</sup>格<sup>かく</sup>かとい<sup>えと</sup>うと干支<sup>えと</sup>の<sup>えと</sup>五<sup>ご</sup>番<sup>ばん</sup>目<sup>め</sup>、架<sup>か</sup>空<sup>くう</sup>の動<sup>どう</sup>物<sup>ぶつ</sup>は干支<sup>えと</sup>では<sup>りゅう</sup>龍<sup>りゅう</sup>1<sup>りゅう</sup>つ<sup>りゅう</sup>だけ<sup>りゅう</sup>で<sup>りゅう</sup>漢<sup>かん</sup>書<sup>じよ</sup>では辰<sup>たつ</sup>とい<sup>し</sup>う字<sup>じ</sup>は、草<sup>くさ</sup>木<sup>き</sup>の意<sup>い</sup>を表<sup>あらわ</sup>して<sup>あらわ</sup>い<sup>あらわ</sup>る



とい<sup>わ</sup>うこ<sup>わ</sup>と<sup>わ</sup>分<sup>わか</sup>り<sup>わか</sup>やす<sup>わか</sup>く<sup>わか</sup>使<sup>つか</sup>い<sup>つか</sup>やす<sup>つか</sup>く<sup>つか</sup>す<sup>つか</sup>る<sup>つか</sup>た<sup>つか</sup>め<sup>つか</sup>に<sup>つか</sup>後<sup>のち</sup>に<sup>のち</sup>辰<sup>たつ</sup>とい<sup>し</sup>う<sup>し</sup>字<sup>じ</sup>にな<sup>し</sup>った<sup>し</sup>そ<sup>し</sup>う<sup>し</sup>で<sup>し</sup>す。昇<sup>のぼ</sup>り<sup>のぼ</sup>龍<sup>りゅう</sup>で<sup>りゅう</sup>非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>に<sup>えんぎ</sup>縁<sup>えん</sup>起<sup>ぎ</sup>が<sup>えんぎ</sup>よ<sup>えんぎ</sup>い<sup>えんぎ</sup>とい<sup>えんぎ</sup>う<sup>えんぎ</sup>こ<sup>えんぎ</sup>と<sup>えんぎ</sup>で、お<sup>みせ</sup>店<sup>みせ</sup>とか<sup>えいぎょう</sup>営<sup>えい</sup>業<sup>ぎょう</sup>を<sup>えいぎょう</sup>始<sup>はじ</sup>め<sup>はじ</sup>る<sup>はじ</sup>とい<sup>はじ</sup>う<sup>はじ</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>お</sup>置<sup>お</sup>き<sup>お</sup>物<sup>もの</sup>とか<sup>なまえ</sup>名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>とか<sup>か</sup>買<sup>か</sup>い<sup>か</sup>求<sup>もと</sup>め<sup>もと</sup>た<sup>もと</sup>り<sup>もと</sup>名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>を<sup>なまえ</sup>付<sup>つ</sup>け<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>所<sup>ところ</sup>が<sup>ところ</sup>多<sup>た</sup>い<sup>た</sup>よ<sup>た</sup>う<sup>た</sup>で<sup>た</sup>す。性<sup>せい</sup>格<sup>かく</sup>は<sup>たか</sup>プ<sup>しゅう</sup>ラ<sup>ちゅう</sup>イ<sup>りょく</sup>ド<sup>よく</sup>が<sup>よく</sup>高<sup>たか</sup>く、集<sup>しゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>力<sup>りょく</sup>に<sup>よく</sup>優<sup>よく</sup>れ<sup>よく</sup>て<sup>よく</sup>い<sup>よく</sup>て、今<sup>いま</sup>の<sup>いま</sup>日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>人<sup>じん</sup>には<sup>せい</sup>な<sup>せい</sup>い<sup>せい</sup>正<sup>せい</sup>義<sup>ぎ</sup>感<sup>かん</sup>と<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>に<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>頼<sup>らい</sup>さ<sup>ひと</sup>れる<sup>ひと</sup>人<sup>おお</sup>が<sup>おお</sup>多<sup>けつ</sup>い<sup>ごう</sup>い<sup>じょう</sup>い<sup>ひと</sup>い<sup>はなし</sup>。欠<sup>けつ</sup>点<sup>てん</sup>が<sup>ごう</sup>強<sup>じょう</sup>情<sup>じょう</sup>で<sup>ひと</sup>人<sup>はなし</sup>の<sup>はなし</sup>話<sup>はなし</sup>を<sup>はなし</sup>聞<sup>き</sup>き<sup>き</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ない。自<sup>き</sup>分<sup>い</sup>の<sup>じ</sup>思<sup>し</sup>い<sup>じ</sup>を<sup>お</sup>押<sup>お</sup>し<sup>お</sup>通<sup>とお</sup>す。職<sup>しよく</sup>業<sup>ぎょう</sup>を<sup>えら</sup>選<sup>えら</sup>ぶ<sup>えら</sup>と<sup>えら</sup>き<sup>えら</sup>きは、自<sup>し</sup>営<sup>い</sup>業<sup>ぎょう</sup>と<sup>し</sup>か<sup>し</sup>技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>を<sup>み</sup>身<sup>み</sup>につ<sup>せん</sup>け<sup>せん</sup>ると<sup>せん</sup>か<sup>せん</sup>専<sup>せん</sup>門<sup>もん</sup>職<sup>しよく</sup>、ス<sup>た</sup>ポ<sup>か</sup>ー<sup>か</sup>ツ<sup>か</sup>例<sup>た</sup>え<sup>か</sup>ば<sup>か</sup>格<sup>か</sup>闘<sup>か</sup>技<sup>ぎ</sup>、い<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>闘<sup>か</sup>い<sup>た</sup>な<sup>た</sup>が<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>闘<sup>た</sup>争<sup>た</sup>心<sup>た</sup>を<sup>た</sup>常<sup>た</sup>に<sup>た</sup>持<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>続<sup>た</sup>け<sup>た</sup>て<sup>た</sup>い<sup>た</sup>る<sup>た</sup>ので<sup>た</sup>会<sup>かい</sup>社<sup>いしゃ</sup>の<sup>しや</sup>社<sup>しや</sup>長<sup>ちやう</sup>など<sup>しや</sup>とい<sup>しや</sup>った<sup>しや</sup>独<sup>ひと</sup>り<sup>ひと</sup>で<sup>ひと</sup>頑<sup>がん</sup>張<sup>ば</sup>る<sup>ば</sup>職<sup>しよく</sup>業<sup>ぎょう</sup>が<sup>えら</sup>天<sup>てん</sup>職<sup>しよく</sup>と<sup>えら</sup>言<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る。辰<sup>たつ</sup>年<sup>どし</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>かん</sup>こ<sup>かん</sup>ん<sup>かん</sup>な<sup>かん</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>かん</sup>の<sup>しよく</sup>職<sup>しよく</sup>業<sup>ぎょう</sup>を<sup>えら</sup>選<sup>えら</sup>ん<sup>えら</sup>で<sup>えら</sup>は<sup>えら</sup>ど<sup>えら</sup>う<sup>えら</sup>か<sup>えら</sup>き<sup>えら</sup>つ<sup>えら</sup>と<sup>えら</sup>成<sup>せい</sup>功<sup>こう</sup>す<sup>せい</sup>ると<sup>せい</sup>思<sup>せい</sup>い<sup>せい</sup>ま<sup>せい</sup>す。職<sup>しよく</sup>業<sup>ぎょう</sup>を<sup>あ</sup>拳<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>ば<sup>あ</sup>き<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>ない。

私<sup>わたし</sup>は<sup>な</sup>い<sup>な</sup>つ<sup>な</sup>も<sup>な</sup>何<sup>ちやう</sup>か<sup>せん</sup>に<sup>い</sup>挑<sup>い</sup>戦<sup>せん</sup>し<sup>い</sup>な<sup>い</sup>が<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>生<sup>せい</sup>きて<sup>せい</sup>き<sup>せい</sup>た<sup>せい</sup>け<sup>せい</sup>ど、今<sup>ことし</sup>年<sup>おち</sup>は<sup>き</sup>思<sup>た</sup>い<sup>た</sup>切<sup>た</sup>り<sup>た</sup>楽<sup>た</sup>しく<sup>た</sup>一<sup>いち</sup>年<sup>ねん</sup>を<sup>す</sup>過<sup>す</sup>ご<sup>す</sup>し<sup>す</sup>たい<sup>す</sup>です。

ふたあらかやまじんじゃ ふたあらか  
**二荒山神社 (二荒さん)**

ながたげんじ  
**永田元司**

1月下旬、二荒山神社へ初詣に行ってきました。初詣というには遅い  
 のかな。7年前に宇都宮に来て以来、お参りするのは初めてです。階段下の  
 鳥居の所には何度も行ったことがあるのですが。30年以上前に、小学校  
 の遠足で行ったとき以来です。記憶もかすかにしか残っていません。車椅子  
 で行くのは大変だと思っていたのですが、中腹まで車で行けるという話  
 を聞き、行ってみることにしました。

二荒山神社の西側、Vネットの建物の脇に駐車場入口があり、登って  
 いくと駐車場の屋上に停められます。① しかし、そこから先に急勾配  
 の坂が待ち受けています。② 介助者に押ししてもらいましたが、結構きつ  
 そうです。登った辺りは③のようで、何台か車も停まっています。何か  
 しら理由を言って車で上がってしまった方がいいかも。境内まで来れば、  
 石畳やアスファルト舗装の通路があって、車椅子で動くことができます。



① 屋上駐車場  
 20分100円也



② 急勾配の坂  
 電動車椅子でも無理そう



③ 坂の上 本殿西側

時期が遅かったのか、境内に人はまばらでしたが、鳩がたくさんいまし  
 た。何も餌を持っていないのに、私の周辺に群がってきて、ヒッチコッ  
 クの「鳥」のソフトバージョンかと、ちょっと怖い体験でした。賽銭箱の  
 前までは問題なく行くことができ、100円を奮発して、しっかりCIL

とちぎの発展と世界  
 平和を願ってきました。  
 その後、おみくじを引  
 いてみましたが、結果  
 は小吉。欲をかかずに  
 地道に頑張ろうと思ひ  
 ます。



家内安全・商売繁盛  
 無病息災・大願成就



おみくじ200円 小吉

かえ きたがわ ちゅうしゃじょう はい おく い  
 帰りに北側の駐車場に入って奥まで行っ  
 てみました。じんじゃ ひがしがわ つなが  
 神社の東側まで繋がっていて、  
 にしがわ  
 西側よりゆるいスロープがあるのが見えまし  
 た。しかしフェンスで塞がれていて通ること  
 ができません。こうじ お  
 工事が終わればこちらから行  
 く方がいいかもしれません。



まあ、たいいん い わ らいねん まい い  
 まあ、大変でも行けることが分かったので、来年もお参りに行ってみよ  
 うと思います。

## くるまいすちゅうしゃじょうりようしょう ふけん そうごりようかのう 車椅子駐車場利用証が23府県で相互利用可能に



### ちゅうしゃ りようしょう (おもいやり駐車スペース利用証)

とちぎけん りようしょう とちぎけん  
 栃木県の利用証はすでに栃木県・  
 ぐんまけん ふくしまけん やまがたけん いばらきけん にいがたけん  
 群馬県・福島県・山形県・茨城県・新潟県  
 の6県で使えるようになっています。  
 そして以下の23府県が、今年4月か  
 ら相互利用できるようにすることで  
 合意しました。

いわて やまがた ふくしま いばらき とちぎ ぐんま  
 岩手、山形、福島、茨城、栃木、群馬、  
 にいがた ふくい きょうと とっとり しまね おかやま  
 新潟、福井、京都、鳥取、島根、岡山、  
 ひろしま やまぐち とくしま かがわ えひめ こうち  
 広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、  
 さが ながさき くまもと おおいた かごしま  
 佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島

とちぎけん りようしょう けんおよ かくしちょう まどぐち  
 栃木県の利用証は県及び各市町の窓口  
 等に身体障害者手帳、療育手帳、精神

しょうがいほけんふくしてちようなど じさん じょうふ  
 障害者保健福祉手帳等を持参して交付してもらうことができます。

## きかんしこうどくかいいんほしゅうちゅう 機関誌購読会員募集中

じりつせいかつ きかんし ねん かいほつこう こうどく  
 自立生活センターとちぎの機関誌（年3回発行）の購読をしてくれる  
 かいいん ほしゅう かいいん とうろく したかた には、C I Lとち  
 ぎを募集しています。会員として登録してくれた方には、C I Lとち  
 ぎのさまざまなイベントのご案内もいたします。年会費 300円